

2005年 5月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長兼最高経営責任者
 奥 田 務

2005年 4月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	4 月 度	3 ~ 4月 累 計
百貨店業	0.2	2.2
スーパーマーケット業	2.4	2.3
卸 売 業	1.1	1.7
その他事業	10.3	14.2
連結合計	0.7	1.0

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	4 月 度		3 ~ 4月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	0.4	3.2	1.7	4.5
梅田店	1.4	1.5	3.4	2.8
東京店	3.0	2.5	3.6	0.7
京都店	2.3	10.6	2.0	7.9
山科店	0.7	-	1.6	-
神戸店	0.9	2.2	3.0	5.7
新長田店	6.7	-	9.2	-
須磨店	7.4	-	5.7	-
芦屋店	2.9	-	4.8	-
札幌店	10.9	16.0	4.9	5.3
直営10店舗計	0.6	0.5	1.4	2.4
博多大丸	2.2	9.6	5.9	9.1
下関大丸	4.7	6.2	3.1	1.8
高知大丸	2.0	6.4	4.0	5.8
今治大丸	8.0	-	4.9	-
百貨店業合計	0.2	-	2.2	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	4 月 度	3 ~ 4月 累 計
紳士服・洋品	0.4	0.4
婦人服・洋品	2.1	1.5
子供服・洋品	8.5	6.7
その他の衣料品	0.1	1.3
衣料品計	0.9	1.6
身の回り品	1.0	1.4
家具	4.0	1.4
家電	39.1	23.9
その他の家庭用品	2.7	0.2
家庭用品計	0.1	2.3
食 料 品	0.7	1.2
食堂・喫茶	1.1	3.7
雑 貨	0.1	1.2
サ ー ビ ス	1.3	2.0
そ の 他	14.0	21.8
合 計	0.6	1.4

3 . 概況

1) 百貨店業

- ・ 4月の百貨店業の売上高は、気温の上昇に伴い婦人服を中心に季節衣料の動きが活発となり直営店は対前年0.6%増となったが、全体では同 0.2%減となった。
- ・ 直営店の店別売上高は、札幌店は12ヶ月連続、京都店は5ヶ月連続で前年を上回ったほか、神戸店は3ヶ月振りに前年を上回った。(京都店の入店客数が2桁減となったのは前年の食品フロア改装による動員効果の反動によるもの)
- ・ 商品別では、婦人服・洋品はヤングアダルトキャラクターを中心にスプリングコートやジャケットが活発に動いた。紳士服・洋品はスーツなどビジネスアイテムは苦戦したが、ヤングアダルトを中心にジーンズやジャケットが好調であった。身の回り品はハンドバッグがよく動き、家庭用品はリフォーム関連家具が伸ばした。雑貨は化粧品や宝飾品が好調に推移したが、雑貨全体としては微減となった。
- ・ 博多大丸は2月に改装した食品は依然2桁増で推移するものの、下旬に発生した地震による影響も加わり全体では対前年 2.2%減となった。下関大丸は催事の不振が響き同 4.7%減となった。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、全店で実施した創業45周年記念販促が奏功し対前年2.4%増であった。地区別では関東地区は既存店ベースで前年を上回ったことに新店(昨年12月開店)の嵩上げ効果も加わり対前年4.0%増、関西地区は同0.5%増であった。
- ・ 卸売業の大丸興業の売上高は、電子部品が低調であったことにより対前年 1.1%減であった。
- ・ その他事業では、建装事業の大丸装工や飲食店業のレストランピーコックなどが伸ばした。

お問い合わせ先	株式会社 大丸	グループ本社	広報・IR部
		TEL	06-6281-9002
		FAX	06-6245-1343